

中村被服株式会社



幼稚園制服専門メーカーとしての品揃え充実とオリジナルニーズの対応力向上

時代のニーズに応じて「多品種少量生産に対応したセル生産設備」「帽子生産に不可欠な芯貼り機設備」「オリジナル制服にするためのマーク加工設備」を導入し、革新的な製造・拡販を目指した。

取組の背景 小回りの利くものづくりを目指して

現在、安価大量製品はベトナム協力工場で生産しているが、中ロットの計画的な生産は国内協力工場で行っている。しかし、廃業や担い手の高齢化により、生産体制の確保は年々厳しくなっている。また、少子化および個性化や多様性への理解が進む社会のなかで、当社の顧客である幼稚園・保育園

においても、他園と差別化した特注デザインや個別マーク加工などを施したオリジナル制服のニーズが増えている。そのため、自社における多品種少量生産の効率化が課題となっていた。また、3月園児募集締切からの注文による短納期・小ロットの生産も求められていた。こうした背景から本事業に取り組んだ。



多品種・少量・短納期
生産体制の確立

取組内容 ナカムラノミクス=3本の矢

1 セル生産方式で多品種少量生産への対応力を強化

セル生産とは、縫製の全工程を1人もしくは少人数で行うもので、多品種少量生産に適している。しかし、従来の設備では、同一マシンでアタッチメントの交換や糸の変更などのロスタイムが生じるデメリットがあった。そこで、「1本針本縫自動糸切りマシン」「アイロン仕上げ台」を増やし、生産ラインを拡大。生産時間を約2割削減できた。



2 帽子専門分野の技術開発と商品供給力の維持継続

「エア一式直線式接着プレス機」を導入。表地と芯地を貼り合わせた状態で、パーツ裁断を行えるようにした。これによって、裁断作業が1回になり、従来よりも半分の時間で帽子の縫製を行えるようになった。



3 転写プリント機による短納期対応の実現

「転写プリント機」「カッティングプロッター」「熱プレス機」の導入により、加工精度を高め、オリジナル制服の短納期対応を実現することができた。

取組成果 企業としてのアイデンティティも強化

新たな機械を導入したことで、少量多品種、短納期のオーダーも受けられるようになり、小口対応は増加傾向にある。従来は、前身頃、後身頃、ポケットなどのパーツに特化した縫製工を配置するダンゴ生産が主だったが、セル生産ラインを増加したことで、個々の技術力の強化、高度な技能を備えた多

能工を育てる環境整備にも役立っている。また、本事業に取り組むことで、国の方向性を理解し、自社の立ち位置や現状を把握し、企業としてのアイデンティティを強化する良い機会につながった。結果として、単に業務の効率化だけではなく、社員教育においても大きなメリットがあったといえる。

今後の展望 ものづくりの技術を絶やさないために

自社生産品の製造コスト削減により、市場に見合う販売価格設定を可能にし、国内外で縫製された製品にマーク加工を施すことで、商品価値を高めていく。そうした生産体制が確立されれば、生産ロットによる価格差を縮められるものと期待している。衰退する縫製業界で生き残るためには、変化する社会環境、顧客ニーズに

対応した製品づくり、人材育成が欠かせない。そのためにも、今後も新入社員の採用を積極的に継続していく。また、子育てや介護などのライフイベントの変化に合わせて、在宅勤務など柔軟に働き方を変えられる職場環境を整え、国内循環できる仕組みづくり、社内外のネットワークを構築・強化していきたい。



代表取締役 中村 顕

ADVICE

情報を収集し、まずは関係機関に相談を！

インターネットで誰でも情報を見られる時代です。日頃から関係省庁の支援情報を収集し、企業経営に活かすことが大切ではないでしょうか。この制度を知ったときがチャンス！ あったらいいなという設備を導入する後押しになるはず。とはいえ、初めての場合は何から始めればいいのかかわからないと思います。そんなときは、ぜひ商工会議所や山口県よろず支援拠点に相談されてみてください。親身になってアドバイスして下さるので、書類作成への不安も解消されると思います。

中村被服株式会社

〒747-0806 山口県防府市石が口2-9-1
TEL 0835-22-3515 / FAX 0835-22-3583
<https://nhifuku.jp> <https://kirinji.co.jp>
業種 縫製品製造業
資本金 6,000万円
従業員数 123名(令和元年9月)
大正13(1924)年創業
代表取締役 中村 顕



大正13(1924)年創業の老舗縫製メーカー。幼稚園・保育園などの制服の企画製造販売のほか、中学校および企業・官公庁の制服の販売も行っている。当社が手がける「キリン保育園児服」は、全国4,000園以上との取引実績をもつ総合園児服ブランド。平成30(2018)年からは保冷ボックスのブランド「ペンギンシッパー」も立ち上げ、多種多様な製品を展開している。